

発刊された『ほくりく文学紀行』表紙に使われた夕闇迫るJR金沢駅東口広場の鼓門が新しい金沢の風情をにじませる



金沢学院大学文学部日本文学科は九月三十日、『ほくりく文学紀行』を発刊しました。同学科の八教員が、北陸地方を舞台に展開する現代小説三十八作品のゆかりの地を訪ね、その風景を作家がなぜ選んだのか、小説で何を伝えたいのかなどを随筆風にまとめて紹介したものです。文学部研究室で注文を受け付けています。

『ほくりく文学紀行』発刊

文学部教員の執筆まとめ

現代小説 38 作品ゆかりの地へ

執筆したのは、柳澤良一、秋山稔、山下久夫、田邊正彰の四教授、藤際子、水洞幸夫、寺田達也の三准教授、寺田智美講師の八人です。

雑誌『月刊北國アクトス』誌上で二〇〇四年一月から、八教員がリレー連載した「新ふるさと文学紀行」を再構成しました。ふるさと教育にも役立つ教材・案内書となるように配慮して、地図、作家紹介のほか参考文献やテキスト名も添えています。

日本文学科では二〇〇三年四月に、石川県に関連した作家・文学作品を扱った『ふるさと 石川の文学』を刊行しており、新刊は同書の続編。姉妹版ともなっています。文学部研究室を通じて定価千六百八十円のところ二割引で購入できます。

『月刊北國アクトス』の連載再構成

起業家が体験談

経営情報学部

金沢学院大学経営情報学部の公開講座「身近な起業家に聞く」は九月二十一日、北國新聞会館のサテライト教室で行われました。

パステルラボの伊藤数子社長が十五年前に、自らコミュニケーションプランナーという職業を創作して起業した経緯と会社の業績を紹介し、「当たり前のことを疑う」など五項目の起業のポイントを挙げました。

金沢市工業振興課の中島三津男氏が金沢市の起業支援制度、ITプラザの利用状況などを説明しました。

公開講座で学ぶ

アート、アナログ デジタルを考える 美術文化学部



金沢学院大学美術文化学部の公開講座「アートの世界 デジタルとアナログの世界」は九月二十二日、金沢21世紀美術館で開催しました。

飯田栄治教授が「アートとデジタルの新たな関係」と題して、最近のフェアからユニークな作品を取り上げました。NHKの番組制作にも携わっているアニメーション・クリエーターの外山光男氏は、独特の感性と世界観を持つ自らの創作アニメを披露しました。

美術文化学部の公開講座
「金沢21世紀美術館

経営情報学部の公開講座

北國新聞会館



大学6人、短大2人が卒業
金沢学院大学と金沢学院短期大学の九月卒業式は三十日、短大第一会議室で行われ、大学美術文化学部の六人、短大二人が半年遅れながら、晴れの門出を迎えました。石田寛人学長が卒業生八人にそれぞれ卒業証書を手渡したあと、祝辞として王之渙の漢詩「鶴鶴樓（かんじやくろう）に登る」を送り、「人生の遠いところも望みながら、力いっぱい歩んでほしい」と激励しました。



石田学長から卒業証書を受ける卒業生

5日に赤川氏の特別講義
金沢学院大学文学部特別講義は十月五日午後三時から、4号館講堂で行われ、作家で本学客員教授の赤川次郎氏が「優柔不断の作家道」と題し講演します。申し込みは文学部研究室「076(229)8874へ。

発行・広報室